

森林保全と人材育成部会 取組報告

2017年1月24日
森づくり委員会事務局

第1回作業部会(保全人材)

- 日時 平成28年9月26日(月) 9:15～16:30
- 場所 豊田森林組合および市内現場
- 参加者数
 - 委員11名、オブザーバー2名、事務局運営支援チーム1名、事務局
- 次第
 - 1.座学
 - 2.視察①(サンガ坂線①(稲武地区))
 - 3.視察②(サンガ坂線②(稲武地区))
 - 4.視察③(竜岡町棚口(足助地区))
 - 5.視察④(三ツ足市有林(足助地区))

東海豪雨被災地の跡地等を訪問し、森林保全について検討



■ サンガ坂線①(稲武地区)

- 東海豪雨の被災地
- 急傾斜地の土砂崩壊
- 皆伐再造林地であり、幼齡林の斜面崩壊防止効果が低かったことなど

■ サンガ坂線②(稲武地区)

- 東海豪雨の被災地
- 豪雨による沢抜けが発生、調査地の中で最も崩壊地の延長が長い(約730m)
- 路網の影響など

■ 竜岡町棚口(足助地区)

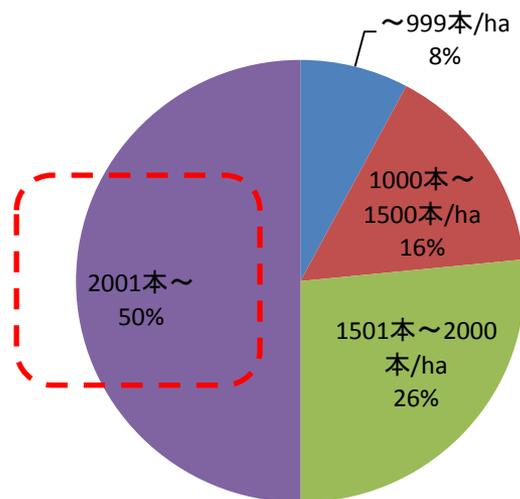
- 東海豪雨の被災地
- 急傾斜地での沢抜けが発生
- 土砂崩壊後の植生復旧状況

■ 三ツ足市有林(足助地区)

- 森林土壌と林分成長
- 2箇所(尾根部と斜面下部)の土壌層の確認
- 林業適地と不適地

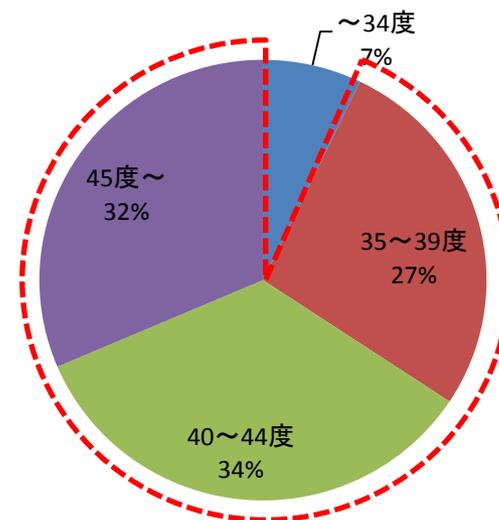
■ 立木本数区分

- 2001本/ha以上の被害地が最多(50%)
- 豊田市の平均林齢を考えると、1500本/ha以上の過密林分が占める割合は76%



■ 被害地の傾斜区分

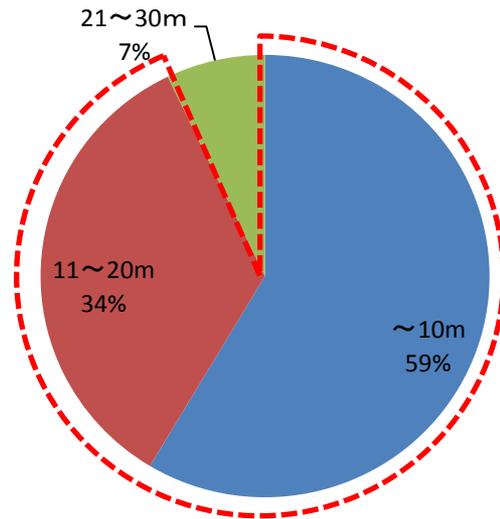
- 傾斜40～44度の被害地が最多(34%)
- 土砂の安息角と言われる傾斜35度以上の被害地は全体の93%



防災機能を高めるためには、過密林の解消と急傾斜地の取り扱いがポイント

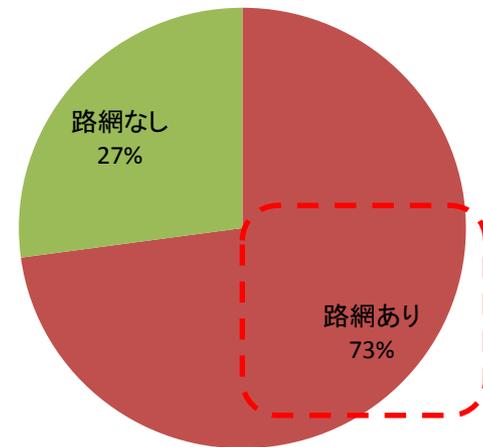
■ 被害地の崩壊幅

- 崩壊幅10m以下の被害地が最多(59%)
- 崩壊幅20m以内の被害地は全体の93%



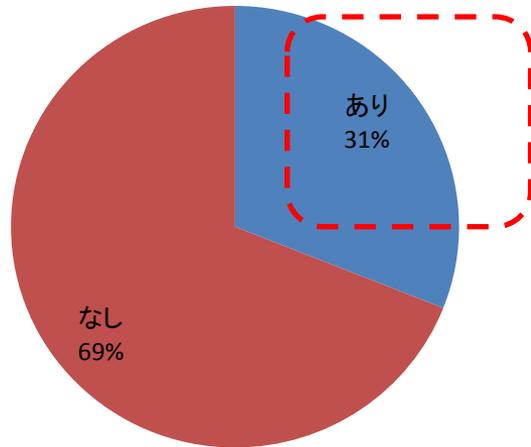
■ 被害地の路網の有無

- 被害地のうち、路網がある、あるいは路網が接している被害地は73%



防災機能を高めるためには、保護林帯や路網設置の取り扱いがポイント

- 被害地の沢沿いの有無
 - 沢沿いにおける崩壊は全体の31%

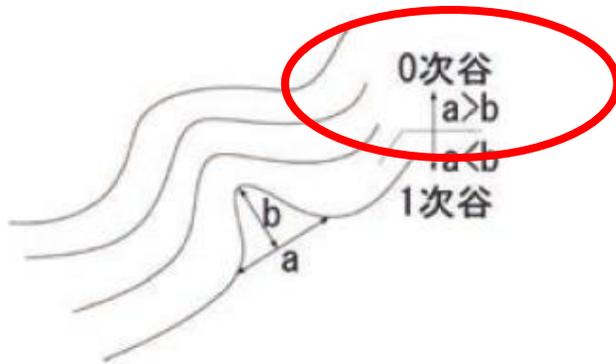


防災機能を高めるためには、沢沿い(河畔林)の取り扱いもポイント

視察先の写真



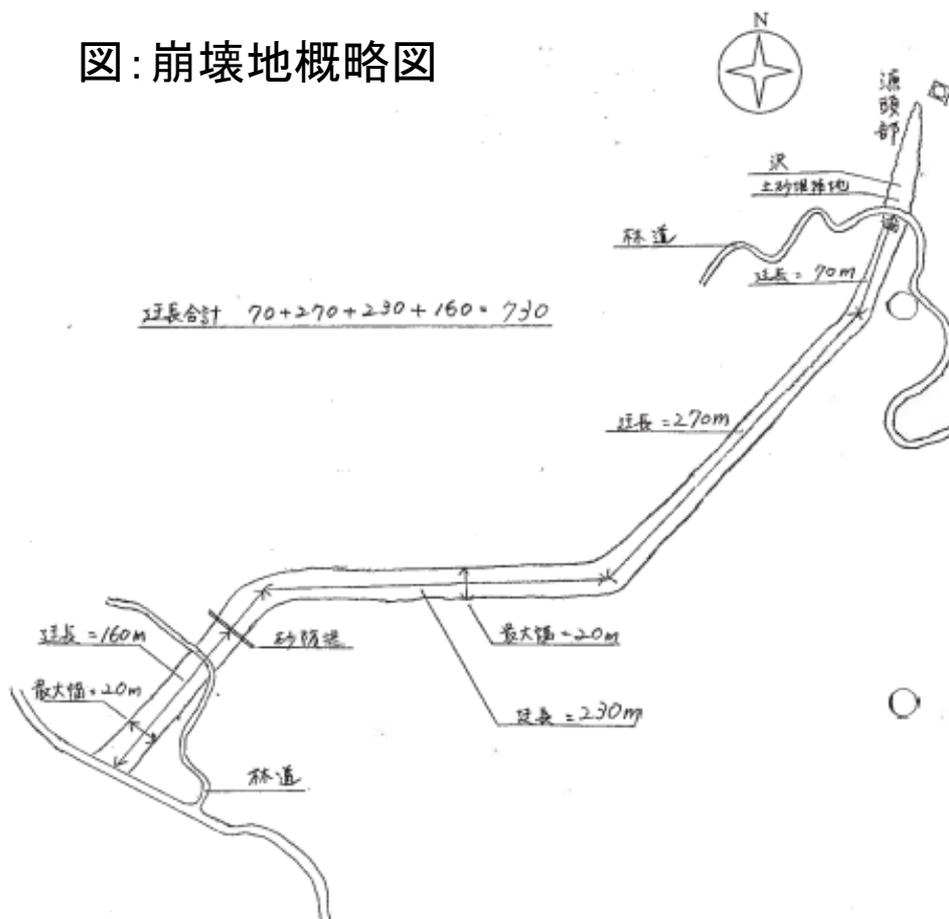
0次谷 (河川砂防技術基準による定義)



- 現場は急傾斜地であり皆伐再造林地
- 東海豪雨当時はまだ幼齡林(5~10年)で、斜面崩壊防止効果も低かった
- 現在でも植生回復は芳しくなく、林業不適地における森林管理が課題
- 斜面崩壊は傾斜30~50度で発生しやすく、郡上市では傾斜地における施業ルールを設定
- 植栽直後(10~20年)で斜面崩壊が起りやすい

0次谷の取り扱いに関するルール、皆伐のルールづくりが必要

図：崩壊地概略図



- 視察現場は豪雨による大規模な沢抜きの発生地
- 崩壊延長730m、幅20mの崩壊現場
- 国内では河畔林保護のルールづくり（例えば保護林帯の設定、広葉樹天然林への誘導）を目指す自治体も

下写真：視察先。沢沿いにギャップがある



豊田においても沢沿い(河畔林)の取り扱いに関するルールが必要

第2回作業部会(保全人材)

- 日時 平成28年12月9日(金) 9:15～16:20
- 場所 豊田森林組合および市内現場
- 参加者数
 - 委員8名、オブザーバー2名、外部講師4名、事務局
- 次第
 - 1.座学
 - ①(森林・林業の人材育成制度)
 - ②(「緑の雇用」事業における概要と課題)
 - ③(森林施業プランナーの育成と展望)
 - 2.視察①(架線集材現場(下山 和合地区))
 - 3.視察②(獣害被害地(下山 大沼地区))
 - 4.視察③(間伐実施地(下山 阿蔵地区))

「人材育成」をテーマ
に作業部会を実施



■ 指導員A

- 応用は自分で学んでもらえばよく、研修では第一に基本の伐出・搬出作業の習得に重点
- (視察地の)現場は、研修生教育のために、通常よりも人工をかけて施業を実施(ただし、緑の雇用事業による補助金で補填される)
- 安全面の指導にも力点。例えば、一歩前に出るときに慌てない、チェーンソーを使う際の体の向きなど

■ 研修生B

- もともと豊田市の出身。前職は林業に関連のない分野
- 長く続けられる仕事につきたく、林業を選択。初めて森林組合を見学した際に70歳くらいの人の仕事の様子を見て、長く続けられるのではないかと思った。
- 就業前では林業に対する具体的なイメージはなかった。「木こり」はかわいいイメージがあったが、就職してみると実際にはそのようなことはなかった
- 実際に仕事をしていく上で、きつい苦しい汚いということはあるが、昼ご飯がおいしい、など前職では感じられなかった喜びもある
- この先できれば継続していきたい。ただし、技術習得度や、ライフステージの変化、待遇などで継続を断言できる訳ではない。

実技研修に加え、技術・経験レベルに応じた研修機会の充実等が必要。
さらに定着に向けて作業員の待遇改善やキャリアアップの支援等も必要

■ 組合就職の経緯

- 以前は役場に勤務。林業担当を機に地元の山の魅力にひかれ、森林組合に入社。H15年の緑の雇用事業最初の研修生
- 当初は同期が15人いたが、10人辞めて現在5名が在籍。合併により、豊田森林組合の職員へ

■ 現状、今後の人材育成

- 組合に入って十数年経過。定年まで続けたい考え。この仕事は所有者の顔が見えるので公務員よりも天職
- 個人的には各種研修に参加できてよい。ただしそうでない人もおり、林学の基礎等が勉強できる環境の整備も必要。中途採用向けの教育システム等
- 植生や地学の知識は、今後、針広混交林化していく中で必要になるのでは。そのため、林学系学校の卒業生でない職員も学べる環境が必要。プランナー研修では経営の内容に偏重。成長量に対してどれだけ切れるか等、追加の勉強が必要

林学の基礎的な研修や森づくり構想実現に必要となる、
針広混交林化に関する内容など研修の質に関する改善も必要

■ 石崎氏(所属:森林総合研究所、第1回)

- 専門分野である、森林・林業にかかる政策や財政状況を踏まえると、将来の人口減少が予測される中で、現状よりも綿密な森林管理、森林・林業への予算配分は厳しいことが予想される
- こうした将来の緊縮財政を踏まえた上で、実際の市内の現場を見ながら、森づくりの構想を議論・検討する必要があるだろう
- 特に、今後のルール作りの中で、人口が密集する市街地(森林管理によってもたらされるサービスの受益者)と森林が広がっている過疎地域(森林管理を担う、各種サービスの供給者)との関連性など、社会経済の視点を含めた検討も必要

- 針広混合林化の重要性が改めて分かった。地質、傾斜地との関係から、その適地を示せばいい
- 豊田市内の森の岩質から表層崩壊への対策（＝人工林対策、人工林施業、間伐等）はとても効果的であることが理解できた。傾斜、河川、人家等人工物も考慮した施業方針を徹底検討し、ガイドラインを形成していきたい。そのうえで間伐、森林保全の在り方を根本から決めていければ
- 利益を還元しにくい森林の所有者に対してどのような施業方針を示していくのかが課題。また針広化に対しては内部での合意形成が必要では（國友）
- 構想の基本的方向性は変えないはずなのでなぜ目標が達成できないのか。（作業員についても）なぜ定着率が低いのか、若者のせいにするのではなく、今の若者に合わせていくことも考えないと（蔵治）
- ①豊田市が理想とする森の姿②資金・人材等を考えて実現できること、この2つをどう組み合わせていくべきか（永井）
- 人材の必要量はどれくらいか（岡本）
- どういう人材が必要なのか、ビジョンを明らかにすべき。特にコミュニケーションは課題。また、林業大学校との連携した、生態や森林全般の教育システムも必要（板谷）
- 森林組合以外の市内における集材事業者の活動状況、従業者数、取扱量などの実情はどうか（片桐）
- 林学未修の組合職員（特に中途採用）の教育方法の検討が必要（青山）

森林保全の方向性やルールを検討に当たって、どれを検討すべき／議論すべき重要な点

■ 第1回作業部会

■ 第2回作業部会

No.	項目	実数	%
1	これまでの間伐実績の評価	6	42.9
2	人工林の間伐推進の改善策	10	71.4
3	皆伐規制のルール作り	6	42.9
4	針広混交林の拡大に向けた取り組み	8	57.1
5	団地化が完了した森づくり会議の今後の展開	7	50.0
6	組合や市の全面的な支援を必要とする森づくり会議の今後の支援の在り方	3	21.4
7	林業従事者の育成に向けた取り組み	6	42.9
8	構想におけるプランナーやフォレスターの位置づけ	3	21.4
9	とよた森林学校を通じた今後の普及の方向性	3	21.4
10	その他	2	14.3
	不明・無回答	0	0.0
	計	14	—

No.	項目	実数	%
1	これまでの間伐実績の評価	2	22.2
2	人工林の間伐推進の改善策	4	44.4
3	皆伐規制のルールづくり	2	22.2
4	針広混交林の拡大に向けた取り組み	6	66.7
5	団地化が完了した森づくり会議の今後の展開	7	77.8
6	組合や市の全面的な支援を必要とする森づくり会議の今後の支援のあり方	3	33.3
7	林業従事者の育成に向けた取り組み	5	55.6
8	構想におけるプランナーやフォレスターの位置づけ	4	44.4
9	とよた森林学校を通じた今後の普及の方向性	3	33.3
10	その他	0	0.0
	不明・無回答	0	0.0
	計	9	—

森林保全では「間伐推進」「皆伐規制のルール作り」
 「針広混交林」「今後の森づくり会議」、
 人材育成では「林業従事者の育成」「構想における人材の位置づけ」
 が今後の検討ポイント

■ 森林保全

- 過密林の解消(間伐のさらなる推進)
- 急傾斜地や沢沿い(河畔林)の取り扱いの検討
- (資源が利用期を迎え、今後増加が予測される)皆伐や再造林放棄に対する対策の検討
- 針広混交林の拡大に向けた合意形成、適地の例示、技術の確立や普及

間伐面積の拡大や針広混交林の拡大に向けた取り組み、
豊田の森林保全に資する新たなルールの設定

■ 人材育成

- 林業従事者の確保(新卒、中途採用)、継続できる環境整備(研修、労働安全、待遇など)
- 森づくり構想実現に必要な人材像の検討、人材育成と活用
- 周辺の林業大学校との連携(特に就職後の教育訓練。既存の研修の補完)

林業従業者等の確保・育成・活用に向けた取り組み

■ その他

- 今後の市の財政状況も踏まえた上での、森づくり構想の実効策の検討
- 団地化が完了した森づくり会議の今後の展開